

◆行政視察事項

①ドイツ・カールスルーエ市

環境政策・太陽光発電等再生可能エネルギー開発について

カールスルーエ市は、ドイツ南西部、黒い森地方の北の端に位置する人口28万人の都市です。

同市は、質量ともに充実したビオトープ等による街の緑地化、



エネルギーの丘（太陽光発電、風力発電）

「カールスルーエモデル」として、世界的に有名なトラム（路面電車）と鉄道を融合させた公共交通システムを導入、ごみのリサイクル政策、風力発電、太陽エネルギーなどの自然エネルギーの導入、エコロジーライフの促進などの取り組みを地域の中で有機的に結びつけながら都市づくりを推進してきています。

今回は、三つの政策について視察。まず、ごみの山を風力発電、太陽光発電、そして、噴出するメタンガスをコジェネレーション設備で発電するなどしてエネルギーの山に変えたエネルギーの丘。次に、街をビオトープによって緑地化した地域。そして、トラムなどの公共交通について。当町のまちづくりにおいて大変有意義で考えることが多くありました。

②ドイツ・マイッツ市

ドイツで最初のクラインガルテンは、19世紀半ばに失業対策事業を兼ねて市民の手で開墾させた農園から始まったとされています。

現在、110万区画ほどあり、区画面積は、平均100坪程で賃借期間は25年あるいは無期限で長期の契約になっています。野菜や果樹、草花が育てられ、ラウベ（Lauge）とよばれる小さな小屋が



ベルン市で担当より説明を受ける

併設され、池を掘り、庭園のようにしている例もあります。個々のクラインガルテンは分散しているわけではなく、ある程度ひとまとまりになっており、大きな緑地帯を形成しています。

老後の生き甲斐や余暇の楽しみの創出という役割だけでなく、都市部での緑地保全や子ども達への豊かな自然教育の場として大きな役割を果たしています。

③スイス・ベルン市

高齢者福祉政策について

ベルンは、スイス連邦の首都であり、人口約13万人のスイスで4番目の都市です。旧市街の中世の街並みは、1983年にユネスコ世界遺産に登録されました。海外の観光客にも人気があり、ヨーロッパで『住んでみたい最も美しい街』トップ10にも入っています。

スイスでも個人主義の拡大と

クラインガルテン（市民農園の運営）について

クラインガルテンは、ドイツで盛んな200年の歴史をもつ農地の賃借制度です。日本語に訳すると「小さな庭」ですが、「市民農園」とも言われています。クラインガルテンは『クラインガルテン協会』が管理し、希望者は協会員になつて区画を借ります。



クラインガルテン（マイッツ）

もに都市における高齢者の孤立化が深刻な問題となっています。ベルンは2012年11月に高齢者福祉政策として「高齢者にやさしいスイスの町ネットワーク」というプロジェクトを立ち上げました。目的は市民の高齢化に対応できる戦略の開発です。

その理念には「高齢を問題視することではなく、それを資源としてこの現象を理解すること。そして、高齢者が一市民としてプロジェクトの進行プロセスの一関係者としなければならない。」とあります。60歳以上の高齢者を含めた15名のメンバーからなるプロジェクトチームを設置して具体的な事業の活動の方法について協議しています。当町でも今後質の高い高齢者福祉政策を推進していく上でおおいに参考になりました。